立枯れが多くなった大群生地

湯の丸高原のレンゲツツジ (群馬県吾妻郡嬬恋村湯の丸高原)

湯の丸高原は、長野県東御市と群馬県嬬恋村にまたがる高原であるが、60万株と言われる国内最大級のレンゲツツジが群生する一帯は、群馬県側にある。地蔵峠近くのスキーリフトに乗って、標高1850m近くまで登り、しばらく進むと群生地が出現する。ここから標高2100mの湯の丸山にかけての緩やかな斜面は、かつてレンゲツツジで真っ赤に染まっていた。かつての写真を見ると、平らな平原から、湯の丸山の斜面は、レンゲツツジで覆われ、それは見事な風景であった。実はこの地は牧場で、牛が放し飼いにされている場所。レンゲツツジは毒性があるので牛は食べない。下草だけ食べてレンゲツツジを牛が育ててきたのである。牛が通った跡に糞がよく落ちている。

2019年6月下旬に訪れた。ところが深い霧で湯の丸山の斜面が見えない。翌日も期待を込めて訪れたが、やはり深い霧。作品はその時のもの。翌年の晴れた日に再び訪れて見ると、湯の丸山はよく見えたが、期待していた斜面のレンゲツツジが少ない。どうしたものかと周辺を観察すると、立枯れがよく目立つのである。かつては真っ赤な花をたくさん付けていただろう木々が、白骨化しているのであった。

そして、昨年いっぱい花をつけていた入り口平原のレンゲツツジも花付きが悪く、緑の葉が目立つ。全体的に、レンゲツツジは衰退の状態に入っていると思われた。原因ははっきりしないが、温暖化による夏場の高温であろうか。日本の自然美の一つが失われつつあるのは、実に悲しいことである。

レンゲツツジの立枯れ。左上が湯の丸山。2020年撮影。かつて湯の丸山の斜面が真っ赤な花で埋め尽くされていた。手前から続くレンゲツツジの大群落は見事と言う他はなかった。